

只見線にみんなで手をふるろう！

## 「手をふるろう条例」制定

只見町議会3月会議で「只見町只見線にみんなで手をふるろう条例」が可決されました。この条例は、広く親しまれているJR只見線の列車に手をふり、乗客へおもてなしの気持ちを示すとともに、只見線への愛着をさらに深め、力強く走る只見線を応援することを目的とした条例です。

これからの通勤途中、散歩中、農作業中もし近くを只見線の列車が走っていたら、列車に向かってぜひ手をふってください。



▲恥ずかしがらずに大きく手を振りましょう!

次の世代に歴史と文化を伝える

## 「会津只見史談会」が発足!!

只見町の歴史、民俗などの調査研究を通じて、地域文化の向上と、次の世代に郷土の歴史・文化を伝えることを目的とする「会津只見史談会」が発足し、2月24日に朝日振興センターで設立総会が行われました。

会員は町にゆかりがあり、会的目的に賛同する方で構成され現在21名。今後は郷土資料の調査・研究や講演会の開催、歴史や民俗文化を語り継ぐ活動などに取り組んでいきます。



▲初代会長に飯塚恒夫さんが選ばれました

只見町消防団 三瓶一也さん

## 永年勤続功労章を受章

只見町消防団で副団長を務める三瓶一也さんが平成26年度の消防庁長官表彰永年勤続功労章を受章しました。

三瓶さんは、昭和59年4月1日に只見町消防団に入団以降30年間勤務され、平成22年4月からは副団長として団長の補佐や消防団の組織運営、消防設備の充実、婦人消防隊や町民の皆さんと連携強化を図るなど本町の消防団活動に大きく貢献された功績が認められ、今回の表彰となりました。



▲3月20日南会津地方広域行政センターで伝達式が行われました

細かく刻まず検査ができます

## 非破壊式放射能検査器設置

朝日振興センターに非破壊式放射能測定器を設置しました。これは検査する食品などを細かく切り刻まなくても放射能検査を行うことができ、測定器となっています。

検査料は無料で、予約の必要はありませんが利用時間は平日の午前8時30分〜午後5時15分までとなります。

詳しくは、農林振興課（☎82-5230）までお問い合わせください。



▲野菜などをこの機械の中に入ると測定できます

農業委員会 町などに  
農業施策に関する建議書を提出

3月30日、只見町農業委員会（渡部且明会長）は町と議会それぞれに只見町農業施策に関する建議書、請願書を提出しました。

この建議書、請願書には、土地利用型農業の経営安定化のための支援強化として、規模・形態にとられない稲作農家支援、水田農業・ソバ生産体制の確立、優良農地の維持・向上に係る支援などを推進するよう農業委員会の意見がまとめられています。

雪を活用した新たな試み  
野菜や加工品を雪むろ貯蔵

日本屈指の豪雪地帯である只見町の雪を活用しようとする只見町雪むろ実行委員会は3月23日、雪まつり大雪像跡地に簡易型の雪むろを設置し、只見のお酒「岩泉」やどぶろく、米や味噌、野菜やたぐり飴などを貯蔵しました。

今回貯蔵した加工品や野菜などは、只見駅前広場で6月20〜21日に行われる開封イベント「ようこそ只見線！只見雪むろまつり」で開封されます。

ストラディヴァリウスによる演奏  
明和小で貴重な音楽体験

3月10日、子どもの夢基金助成事業で、世界的なバイオリニスト、ルツ・レスコヴィッツさんが明和小学校を訪れました。

児童たちはルツさんにバイオリンの弾き方などを教えてもらいその後、ルツさんは地域の皆さんも集まった会場で、モーツァルトの「春」など名曲の数々を世界の名器である「ストラディヴァリウス」で演奏され、会場の皆さんはその音色の素晴らしさに惜しめない拍手を送りました。

講演会を開催  
「ホタルの生息地の保全と再生」

3月14日、中井町生物多様性調査会会長の梶真史氏を講師に招き、講演会を開催しました。講演では、約60種いる日本のホタルのうち、幼虫時代を水の中で過ごす種はわずか3種類であることなど今まで知らなかったホタルの生態を知る貴重な機会となり、ホタルの保全のためには他の生物や環境全体の保全が必要で、事前にどんな環境にどんな昆虫が生息しているのか基礎調査をすることが重要であるということも学びました。

渡部会長から齋藤議長へ請願書の提出



渡部会長から目黒町長へ建議書の提出



▲3か月後どうなっているか楽しみです



▲ルツさんにバイオリンを教えてもらう児童



▲ホタルについて理解を深めた講演会